

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706606		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム夕陽の丘 柳田		
所在地	湯沢市柳田字中嶋227-1		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 利用者様の安心・安全に過ごせる環境を整え自立を支援できるように努めております。
- 利用者様の生活意欲を引き出し、持っている力を活かせるようにお一人おひとりに合わせた個別支援に力を入れております。
- 社会資源を活用しながら利用者様の暮らしがより豊かなものとなるように努めており、外出支援や友人・ご家族様との繋がりを大切にしております。また、Twitterにて事業所の様子を発信しておりご家族様にも生活の様子をみていただいております。

職員は在籍期間が長いことから理念の意味をよく理解していて、利用者と向き合い、毎月の会議やアセスメントを活用して利用者の課題を把握し、サービスに反映させています。今なお、コロナの影響が残り、地域との交流には制限があるものの、敷地内を散歩し、ドライブを兼ねた花見に出かけ、季節の節目節目に行う催しで楽しい時間を過ごすことができるよう工夫しながら利用者の支援を行っています。また、記録を効率的に行うことで利用者への支援の充実を図ることに繋がるため、情報通信技術(ICT)の導入を検討しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族との結びつきを重視しており、それらを踏まえた理念教育を行っている。	職員は理念の意味をよく理解しており、必要な情報を共有して利用者に寄り添い、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	数年間はコロナの影響で地域との繋がりが薄れてしまったように感じるが、地域の清掃活動等に参加している。	コロナ禍で交流の機会は少なかったものの、職員が町内の清掃活動に参加する等、地域との関係性を重視して接点を持てるように心がけており、認知症カフェの再開も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて地域の方から認知症の方との関わり方等について相談を受けることもある。認知症カフェの再開を検討している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自分たちが気がつかない視点からの意見をいただくこともありサービスに活かしている。また、高齢者が多い地域であり事業所のノウハウを活かし地域にできることも検討している。	対面会議を再開しています。ホームの取り組みを伝えることで地域の理解が得られ、会議がホームの運営、サービスに活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて事業所の取り組みを報告しており意見をいただくこともある。また、市からの相談をいただく機会も多く事業所の特徴を理解してくれている。	運営推進会議を通じて情報共有に努めている他、包括支援センターとも円滑な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や委員会で定期的に検討会を行い身体拘束及び虐待防止に努めている。また、職員の言葉がけや接し方についても不適切でないか検討している。	2ヶ月に1回適正化委員会を開催している他、研修等を通じて現状を再確認し、身体拘束及び虐待のないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3名の方が成年後見制度及び日常生活自立支援事業を利用されており理解できている。必要があれば本人情報シートの作成も行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約では文書及び口答で説明を行い、ご理解いただけるように努めている。また、解約ではご家族様と話し合い納得された上で手続きを行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	定期的に状況報告を行い、ご家族様からの要望等も伺っており運営に反映できるように努めている。契約時に第三者機関についての説明も行っている。	コロナ禍で面会制限もありましたが、電話や定期的なお便りを通じて状況を報告し、連絡をこまめにとることを心がけて意見の引き出しに努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者や管理者は職員ミーティングやカンファレンス等の場において、運営や職場環境、職員育成等に関して意見提案を聞き、運営に反映させている。	職員が意見を言い出しやすい環境であり、状況に応じて話し合いができる体制にあることから職員の思いや意見が運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国団体の委員会や支部役員として参画するなど、同業者と交流する機会を作っており、研修会等を通じてサービスの質を向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前よりご家族様やご本人、また関係者より状況をお聞きしニーズの把握に努めている。入居時は職員の情報交換を行いながら不安を取り除き安心出来る環境づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望などをお聞きし利用者様にとって必要とされる支援と一緒に検討しており、ご家族の様の気持ちにも寄り添えるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である『自立と相生』のもとに、利用者様の尊厳を護り、お互いに支え合える関係づくりに努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来ない時期もあったが、状況報告や写真を送るなどの支援を行った。ご家族様からもご意見をいただきサービスに反映している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの方との電話や手紙の支援をしており関係を大切にしている。また、長年の生活習慣を継続できるようにケアプランにも反映させている。	電話や手紙を通じてこれまでの関わりや習慣を大切にされた支援に努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席に配慮したり、必要な時は介入し利用者様が孤立しないよう努めている。また、日中の活動では利用者様同士が関われるよう考慮している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて支援を継続している。また、ご家族様にも契約終了時に支援の継続についてお伝えしており安心していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での気づきなどを記録しアセスメントしている。また、毎月のモニタリングでご本人の希望などがサービスに反映されているかも含めて検討している。	日々の関わりを大切にして利用者の思いや要望の把握に努め、職員の気づきを共有して一人ひとりに合ったサービス提供ができるよう努めています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所やご家族様より情報提供いただきこれまでの生活環境の把握に努めている。それらを踏まえ一人ひとりに適したサービスを提供出来るように努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	モニタリングに全職員が関わり意見を出し合っている。また、ご家族様やご本人、必要であれば主治医からも意見をいただき個別介護計画を作成している。	モニタリング、アセスメントを通じて現状を捉え、全職員で検討して介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録はモニタリングに活かせるように気づきや変化などを分かりやすく記入している。計画作成担当者を中心に介護計画の見直しを行い実践に活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに必要な社会資源を把握し活用できるように支援している。今後は、活用できる社会資源を探しより豊かな暮らしを送れるよう努めていきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望のもとにかかりつけ医を個々に決めている。かかりつけ医が他市町村の方もおりご家族様にも受診の際ご協力をいただいている。	個々の希望に応じ、適切に医療支援をしています。訪問診療を受けている方もおり、緊急時の対応可能な体制がとられています。訪問歯科診療が受けられる体制も整えており、薬局との協力関係も築かれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を締結している併設する老健の看護師の定期訪問の他、急変時など相談出来る環境が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には口頭や書面で情報提供している。また、病院からも入院中の経過報告をいただいております。退院後の支援についても相談させていただいている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方では、契約時に事業所で出来ることと出来ないこと(主に医療面)を説明させていただいている。また、ACPを作成していただいている。	対応可能な医師が確保できたことにより、医療との連携を図りながら終末期ケアの支援に取り組んでいます。実績が少ないことから、職員の不安解消に向けて研修の充実を検討しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年内部研修で実践訓練を行っている。普通救命講習を毎年受講していたが、感染症の影響もあり数年は受講出来ていないため再度受講を検討している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、消防署や地域の消防団に協力いただき併設する老健と連携を図り訓練を行っている。また、市から防災無線が貸与されており災害時の情報収集を早く行えるようになっている。	独自に避難場所を決めて市の了承が得られ、設備の確認も行っています。また、周辺地域の安全と安心感に繋げるために、災害時には併設施設と共に建物内外の灯りを点けたままにしておくことを決めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意欲を引き出し、認められていると感じていただける声がけに努めている。介護現場では、プライバシーに触れることを勉強しており最大限配慮し対応している。	親しく接しながらも馴れ合いの言葉遣いにならないよう気をつけ、排泄時、入浴時の同性介助にも配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常では身だしなみに配慮しており、ご本人の好みや季節に合った衣類を着れるよう支援している。誕生日には洋服をプレゼントしており大変喜んでいただいている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事では、個々の好みを把握しており苦手なメニューでは別の食事を提供し対応している。食事づくりは利用者様にそれぞれ役割を持っていただき一緒に用意している。	普段の食事づくりではできることを手伝っていただくことでその人の力が活かされ、喜びに繋がっています。花見弁当を用意したり、季節毎の行事食で食事が楽しいものになるよう支援しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎回確認しており、その方の状態に合わせて一定量を確保出来るように対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が確認しながら口腔ケアを行っていただいている。必要があれば協力医療機関の歯科医師が往診に来ていただき治療している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。また、個々の状態に合ったパットを使用しており、不安なく快適に過ごしていただけるように努めている。	チェック表を活用し、個々のパターンに応じた支援が行われています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に乳製品を摂取していただいたり、体操や散歩などの運動を毎日行っている。排泄状況の確認を行っており、個々の排便リズムを把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご要望を聞き、入浴時間など調整している。ゆっくりと入浴していただけるように入浴時間や温度など好みに合わせて調整している。入浴の習慣を把握し、対応している。	利用者の希望等、その時のタイミングに合わせて調整し、清潔が保てるように支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動量を多くし夜間の安眠に繋がるよう支援している。就寝時間は一人ひとりの習慣や状態に沿って対応している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬と副作用を把握している。薬の変更時には注意点など医師やかかりつけ薬局からお聞きしている。また、薬変更時には状態観察を行い職員間で情報共有している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努めており、一人ひとりの趣味や得意なことを活かしたレクリエーションや家事仕事などを行っていただいている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度はコロナ禍のため、外出出来ない状況であったが、今年度は少人数で感染対策をしながら外出を行っており楽しんでいただいている。天気の良い日は散歩を日課としている。	ドライブを兼ねて季節の花を観に出かけたりと遠出する機会もつくられています。敷地内の散歩も行われており、外気浴できる環境を活かした外出支援が行われています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力を見極めて対応している。お金をお預かりしていることを利用者様に説明しており必要な物があれば購入をお願いされたり一緒に買い物に出掛けている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるようにお花を飾ったり、装飾品を工夫している。また、利用者様が不快に感じたり混乱することがないように物の置く場所の配慮など環境づくりに努めている。	温度管理された室内で過ごしていることから、利用者が季節を感じ取れるような装飾を意識的に行っています。また、利用者が喜ぶこともあって書道等の作品を廊下に掲示しており、作品づくりの継続のきっかけになるような環境にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はスペースが狭く一人になれる場所を確保することが難しい状況であるため、廊下にソファを設置したり居室でゆっくり過ごせるように配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能であれば使い慣れた家具や日用品をお持ちいただいている。友人や家族との写真を飾っていただくことで安心されている方も多い。	押し入れ、洗面台が装備され、清潔感のある落ち着いた過ごせる居室づくりがされています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりの設置や福祉用具を導入し安全に過ごせる環境づくりに努め自立した生活を支援している。		